

平成21年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成21年4月21日に「平成21年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

この調査は、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、本市の教育及び教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図ることを目的としています。今回の調査結果を活用し、各学校において今後の指導内容や指導方法の改善・工夫につなげていきたいと考えています。

なお、この調査によって測ることのできた学力は、学力の一部であり、子どもたちの学力の全てを表すものではありません。

1 本市の実施状況

○調査実施年月日 平成21年4月21日(火)

○実施内容

- ①小学校の教科に関する調査 国語・算数
 - 主に知識に関する問題 国語A、算数A
 - 主に活用に関する問題 国語B、算数B
- 中学校の教科に関する調査 国語・数学
 - 主に知識に関する問題 国語A、数学A
 - 主に活用に関する問題 国語B、数学B
- ②質問紙調査(生活習慣や学習環境等)

○実施学年

小学校6年生 16校 1207人

中学校3年生 9校 987人

2 本市の調査結果概要

○教科別調査結果 鎌倉市立小中学校平均正答率(単位 %)

		国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
鎌倉	小学校	70.8	53.1	79.7	60.2
	中学校	79.0	76.5	69.0	63.2
県(公立)	小学校	68.7	50.8	78.1	56.6
	中学校	75.6	73.2	62.2	56.7
国(公立)	小学校	69.9	50.5	78.7	54.8
	中学校	77.0	74.5	62.7	56.9

※教科ごとの設問別の平均正答率等は、8ページ以降の[資料]をご参照ください。

本市の各調査教科の平均正答率は、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学ともに、A問題・B問題のすべてにおいて、全国平均及び神奈川県平均を上回っており、良好でした。また、中学校では、B問題の正答率が全国平均及び神奈川県平均を大きく上回っており、たいへん良好でした。

3 教科の概要

○小学校国語

(1)概要

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」の領域別では、「読むこと」に良好な結果を示しています。「書くこと」は、特に B 問題で、「報告文を読み、メモの中に内容をまとめる」「報告文のまとめで、調べてわかったことを書く」の設問で正答率がかなり低く、これは全国や県とほぼ同様の傾向を示しており、課題と考えられます。

(2)領域別の課題 △よい状況・▲課題

<話すこと・聞くこと>

- △目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出す。
- ▲自分の立場を明確にして話し合う。
- ▲話の組み立てを工夫しながら、図を使って説明する。

<書くこと>

- △文章の内容に合わせ小見出しを書く。
- ▲必要な事項をメモに整理したり、調べてわかったことを書いたりする。

<読むこと>

- △段落の内容を効果的にとらえる。
- △筆者の表現の工夫や考えをとらえる。

<言語事項>

- △漢字を正しく読む。
- ▲ローマ字を正しく読む、ひらがなで表記されたものをローマ字で書く。
- ▲接続語を使って、一文を二文に分けて書く。

(3)指導改善のポイント

- ・相手に意図が明確に伝わるように、構成を工夫して話す指導。
- ・書く力をつける指導。
- ・調べる内容を集め、整理し、区別をして文章にまとめる指導。
- ・ローマ字の読み書きの指導。

<具体例>

- ・スピーチの練習を日常的に行う。
- ・習った漢字を使いノートを取る。
- ・資料から必要な情報を読み取り、メモを取る。
- ・考えを整理し、簡潔な文を書く。
- ・ローマ字を使って文章を書く練習を行う。

◎3年間の調査を通じて、「書くこと」が課題として位置づけることができます。日常での「書く」指導を大切にしながら、教科の指導に取り組んでいく必要があります。

○小学校算数

(1)概要

「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の全ての領域別でも、良好な結果を示しています。

(2)領域別の課題

＜数と計算＞ △よい状況・▲課題

△整数、小数、分数の四則計算ができる。

△数を構成している単位を理解する。

▲偶数の意味について理解する。

▲筋道を立てて考え、正しい理由を記述する。

＜量と測定＞

△長さの見当を付ける。

▲筋道を立てて考え、条件に合う数値を選ぶ。

＜図形＞

△平行四辺形の辺の性質を理解する。

▲示された解決方法を理解し、見方を変えた解決方法を考えて記述する。

＜数量関係＞

△グラフから必要なことを読み取る。

▲基準量(基になる値)と比較量(比較する値)から割合の大小を判断し、理由を記述する。

(3)指導改善のポイント

- ・筋道を立てて考え、その理由を説明したり、記述したりする指導。
- ・一つの解決方法から、見方を変えた別の解決方法を考える指導。
- ・百分率など割合の考えを理解できるようにする指導。

＜具体例＞

- ・図や表などをつくり、整理しながら考え方をまとめる。
- ・いろいろな考え方や解決の仕方を発表し、自分の考えと他の考えを比べる。
- ・問題から割合の大小を判断し、割合を計算し、数直線や円グラフに表す。

◎3年間の調査を通じて、他の三つの領域に比べると、「数量関係」が課題として位置づけることができます。割合(百分率)の意味の理解、グラフや表から情報を選択したり、内容を読み取ったりすることの理解が深まるよう、教科の指導に取り組んでいく必要があります。

○中学校国語

(1)概要

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」の領域別にみると、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」に良好な結果を示しています。しかし、「書くこと」は、A問題で、「主語に合わせて述語の部分の正しく直す」の正答率がやや低く、これは全国や県とほぼ同様の傾向を示しており、課題と考えられます。

(2)領域別の課題 △よい状況・▲課題

＜話すこと・聞くこと＞

△効果的なスピーチをするために話し方の工夫をする。

△話の内容から必要な情報を的確に聞き取る。

△聞いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問する。

<書くこと>

△詩と関連付けて自分の考えを書く。

▲主語に対応させて述語を適切に書く。

<読むこと>

△本文の展開に即して内容をとらえる。

△目次の役割や特徴を理解する。

<言語事項>

△漢字を正しく読む。

▲適切な同音異義語を選択する。

(3) 指導改善のポイント

- ・日常的に文章を書く指導。
- ・書いた文章を推敲する態度や方法を身に付ける指導。
- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う指導。

<具体例>

- ・主語と述語が正しく対応する文書を書く練習を行う。
- ・書き終えた文章のみではなく、書いている途中の文章をペアやグループで読み合い、検討する。
- ・国語辞典や漢字辞典を使う習慣を身に付ける。
- ・同音異義語についてまとめたノートを作る。

◎3年間の調査を通じて、「書くこと」が課題として位置づけることができます。伝えたい事柄や考えを明確に伝わるよう、書く指導に取り組んでいく必要があります。

○中学校数学

(1) 概要

「数と式」、「図形」、「数量関係」、それぞれ領域別でも、A問題、B問題とも、良好な結果を示しています。

(2) 領域別の課題

<数と式> △よい状況・▲課題

△単項式どうしの乗法の計算ができる。

▲一元一次方程式で問題を解くために、2通りに表せる数量に着目することができる。

▲筋道を立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明することができる。

<図形>

△観察や操作、実験を通して図形を考察し、空間図形についての理解を深める。

△事象を図形に着目して理解し、その特徴を的確にとらえることができる。

▲証明の意義について理解している。

▲方針にもとづいて証明することができる。

<数量関係>

△座標平面上に点の位置を示すことができる。

△与えられた情報を分類整理することができる。

▲具体的な事象で、2つの数量関係が反比例の関係であることを理解し、表現考察する能力を伸ばす。

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

(3) 指導改善のポイント

- ・方程式を理解し、数量を見出す力及び方程式を活用する力を育てる指導。
- ・事柄が成り立つ理由を説明するために、筋道を立てて、何を示せば良いかを考える指導。
- ・証明の意義や方針に基づいて証明することができる力を育てる指導。
- ・反比例の関係を理解し、表、式、グラフを関連付けて理解する指導。
- ・日常的な事象を数学的に解釈し、一次関数等を用いて説明する指導。

<具体例>

- ・生徒に身近な日常的な事象の問題を扱い、グラフや式など「用いるもの」とその「用い方」を口述したり記述したりして説明する。
- ・問題解決のためにつくられた方程式が、どのような数量に着目して作られているのか振り返るとともに、方程式を作る手順をまとめる。
- ・証明の意義について理解を深めるために、平面図形の性質について、論理的に考察する場面を数多く設定する。

◎3年間の調査を通じて、A問題、B問題共に良好な結果です。今後も基礎、基本の定着を図ると共に、事象を数理的に考察し、表現する能力を高めるために、身近な題材や表現活動を取り入れた数学的な活動を一層重視した授業実践に取り組んでいく必要があります。

4 質問紙調査の結果

○学習に対する関心・意欲・態度

「国語の学習は好きですか」、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」、「授業の内容はわかりますか」の設問からは、小学校では、国語学習に対する関心・意欲・態度が高いという結果が出ています。中学校では、「関心・意欲ある」という回答が全国及び県の平均値よりやや低くなっています。

「算数・数学の勉強は好きですか」、「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか」、「数学ができるようになりたいですか」、「授業の内容はわかりますか」の設問では、算数・数学に対する関心・意欲・態度は、小・中学校とも高いという結果が出ています。

○学習時間

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問から、小・中学校ともに、「3時間以上」「2時間以上3時間以内」に取り組む割合が一番高く、昨年同様よく学習に取り組んでいるといえます。同じ設問で「土曜日や日曜日」については、小学校では「4時間以上」、中学校では「3時間以上、4時間より少ない」が高く、同じくよく学習に取り組んでいるといえます。

「家での宿題、復習、予習」については、「予習」は平均的な結果ですが、「宿題・復習」については、全国及び県の結果よりやや低くなっています。

「家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」の設問から、小・中学校ともよく読書に取り組んでいることが分かります。各学校での朝読書等の指導が活きていると考えられます。

○学習塾

「学習塾(家庭教師を含む)で勉強していますか」の設問から、小・中学校とも「学習塾(家庭教師を含む)に通っている」割合が全国及び県に比べて、高いことが分かります。また、「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している」でも、「勉強している」という割合が高いことが分かります。

○携帯電話・ゲーム・インターネット等

「携帯電話で通話やメールをしていますか」の設問では、「携帯電話を持っている」割合が、小学校では44%、中学校では約70%となっています。小学校から比べると、中学校の保有率が高いことが分かります。

「普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、インターネットをしますか」の設問では、小学校では約50%が「全くしていない」と回答していますが、中学校では約30パーセントと低く、インターネットの利用が、中学校ではかなり広がっているといえます。

○自尊感情・規範意識等

「自分には、よいところがありますか」の設問では、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」割合が小学校では約75%、中学校では約65%となっていますが、一方、「当てはまらない」割合は小中学校とも約10%になっています。さらに多くの児童生徒が、自尊感情をしっかり持てるよう、自分の良いところを見つけ、自信をもって学校生活を送れるように取り組んでいくことが必要です。

「学校のきまり・規則を守っていますか」「友達との約束を守っていますか」の設問は、小学校に比べ、中学校では「当てはまる」割合が多少低く、規範意識に対してやや課題がみえます。

○人とのかかわり

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問では、小中学校ともに、「当てはまる」の値が全国及び県の結果より低く、特に中学校では全国より10ポイント以上低くなっています。前年度も同様な結果が出ており、いじめをなくすために、どんな理由があってもいけないという意識を全員が持つ指導が必要です。

○地域について

「今住んでいる地域の歴史や自然に関心がありますか」の設問からは、昨年に引き続き、小・中学校とも地域に関心が高いことが分かります。これらは、今までの地域を大切にされた教育活動の成果と考えられます。

○生活体験について

「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」の設問では、特に小学校では、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」の回答が90%を超え、地域でよくあいさつができていることがわかります。

5 今後について

学力調査における本市全体の集計結果は、小・中学校全ての調査教科で、前回調査と同様に良い結果を示しています。各教科の調査分析にまとめられた領域別の課題、指導改善のポイント及び具体例をもとに、引き続き指導改善の取り組みを進めていきたいと考えます。

学習状況調査(質問紙調査)の回答集計結果は、前回同様に、「学習に対する関心・意欲・態度」

「学習時間」「学習塾」「携帯電話・ゲーム・インターネット」「自尊感情・規範意識等」「人とのかかわり」等の項目について、調査・分析を行いました。全体的な結果は前回と同様ですが、「人とのかかわり」の項目では、「いじめ」に対する意識にやや課題が出ています。いじめを絶対に許さない意識をしっかりと持てるよう、さらに取り組んでいく必要があります。

本教育委員会としては、3年間に渡り、全国学力・学習状況調査を行い、3回ともほぼ同様な結果が得られています。各教科における3年間共通の課題となっている事項は、全国的な傾向とほぼ同じですが、その解決に向けて、ご家庭の協力を得て、日常的に指導、支援していきたいと考えます。

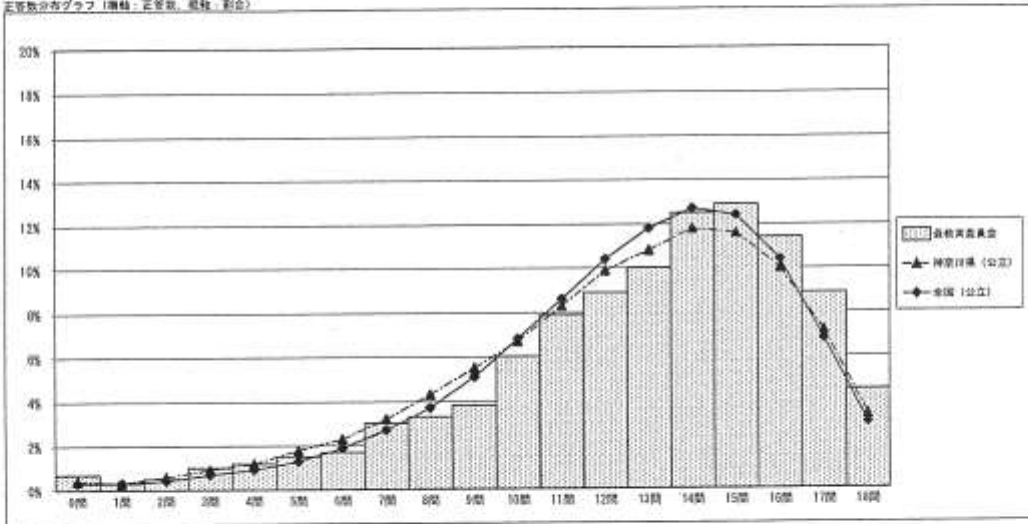
[資料]

<各教科別の平均正答率・中央値・標準偏差及び正答数の分布状況>

小学校国語 A(主として知識)

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,206	12.7 / 18	70.8	14.0	3.7
神奈川県 (公立)	76,888	12.4 / 18	68.7	13.0	3.7
全国 (公立)	1,137,808	12.0 / 18	66.9	13.0	3.4

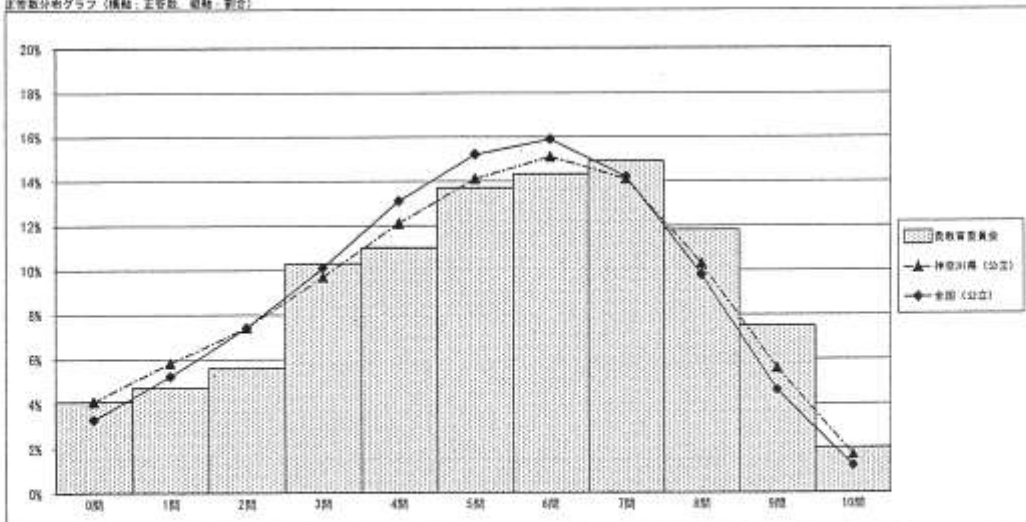
正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



小学校国語 B(主として活用)

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,208	5.3 / 10	53.1	6.0	2.5
神奈川県 (公立)	76,888	5.1 / 10	50.8	5.0	2.5
全国 (公立)	1,137,588	5.1 / 10	50.5	5.0	2.3

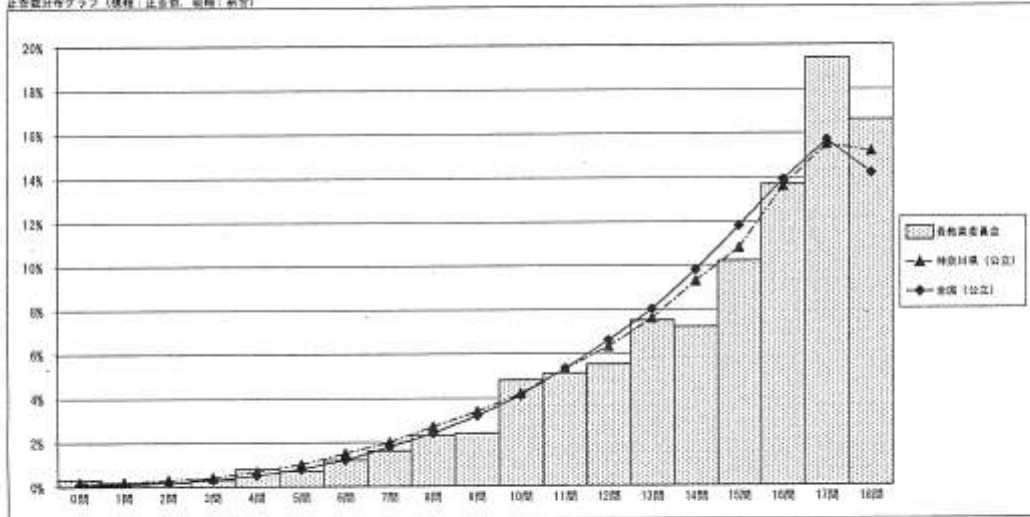
正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



小学校算数 A(主として知識)

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
徳島県教育委員会	1,200	14.4 / 38	37.9	15.0	3.3
神前川県 (公立)	76,865	14.1 / 38	37.1	15.0	3.4
全国 (公立)	1,137,844	14.2 / 38	37.4	15.0	3.4

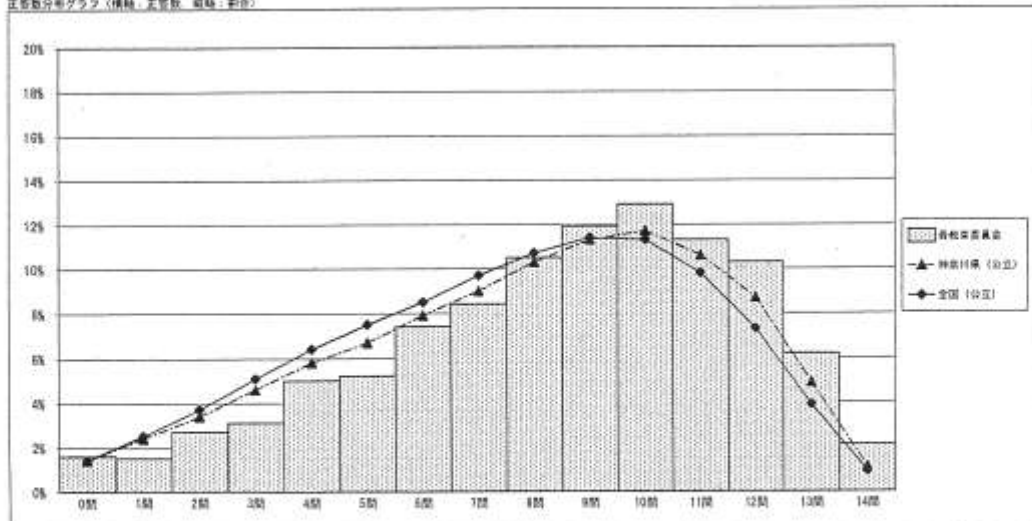
正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



小学校算数 B(主として活用)

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
徳島県教育委員会	1,267	8.4 / 14	60.3	9.0	3.3
神前川県 (公立)	76,847	7.9 / 14	56.4	8.0	3.5
全国 (公立)	1,137,624	7.7 / 14	54.9	8.0	3.5

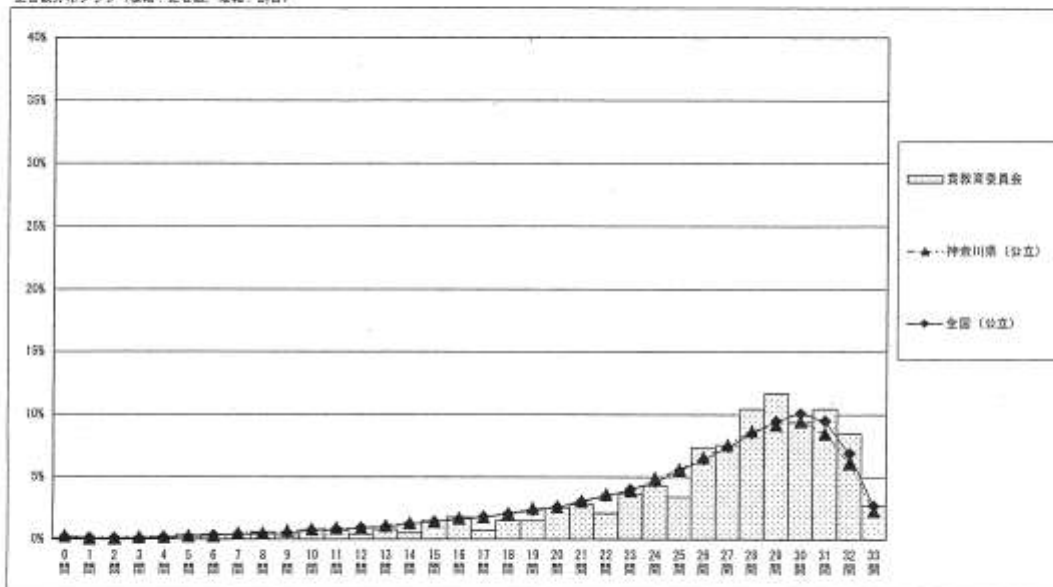
正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



中学校国語 A(主として知識)

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	987	26.1 / 33	79.0	28.0	5.9
神奈川県 (公立)	64,947	25.9 / 33	78.5	27.0	6.4
全国 (公立)	1,035,291	25.4 / 33	77.0	27.0	6.1

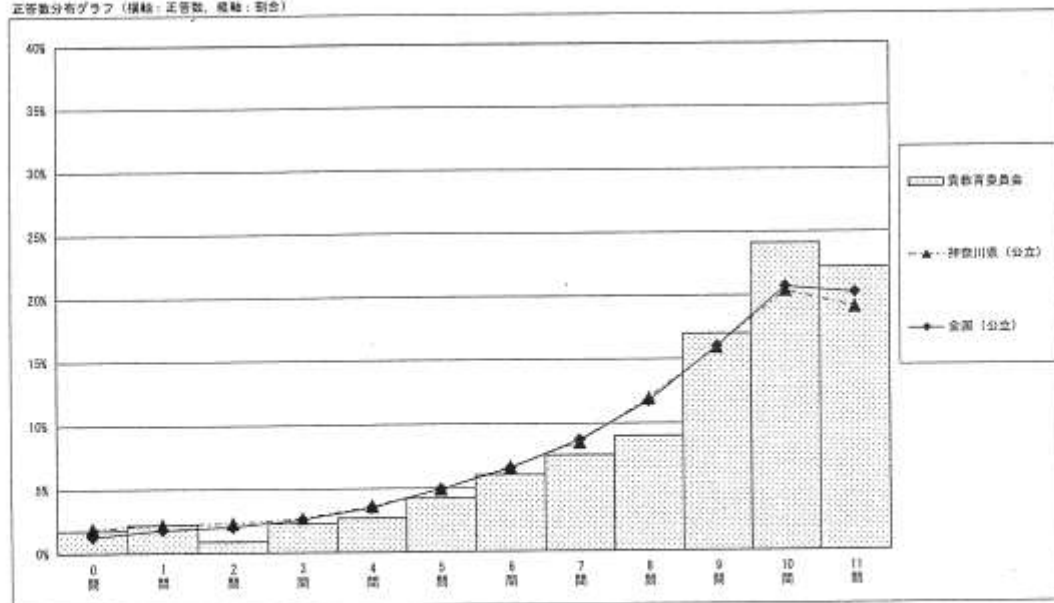
正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



中学校国語 B(主として活用)

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	987	8.4 / 11	76.5	9.0	5.7
神奈川県 (公立)	64,977	8.0 / 11	72.5	9.0	6.8
全国 (公立)	1,035,703	8.2 / 11	74.5	9.0	6.7

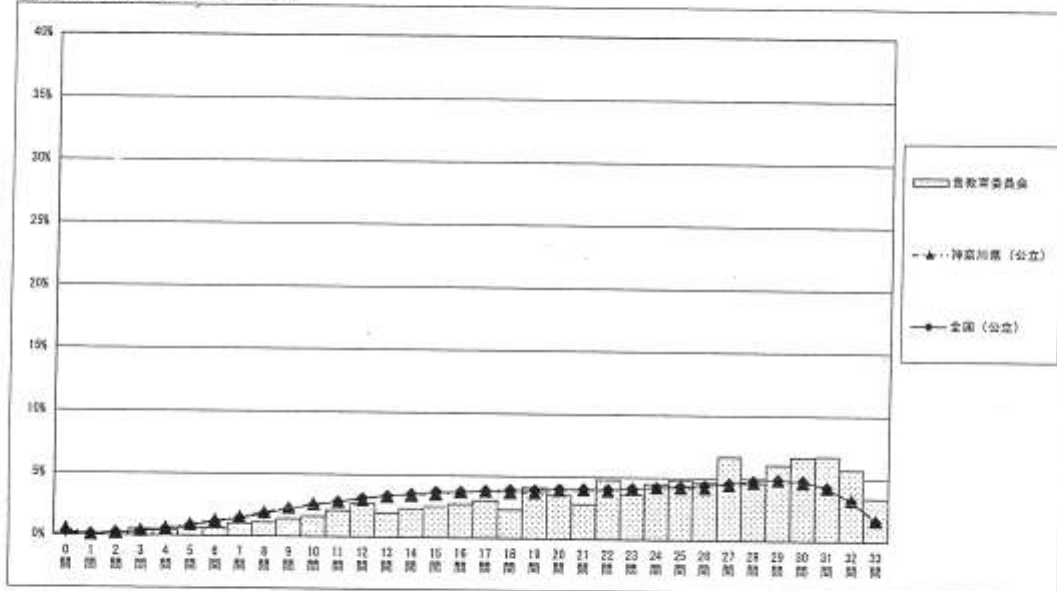
正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



中学校数学 A(主として知識)

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	987	22.8 / 33	69.0	24.0	7.1
神奈川県 (公立)	64,165	20.5 / 33	62.2	21.0	7.8
全国 (公立)	1,033,885	20.7 / 33	62.7	21.0	7.6

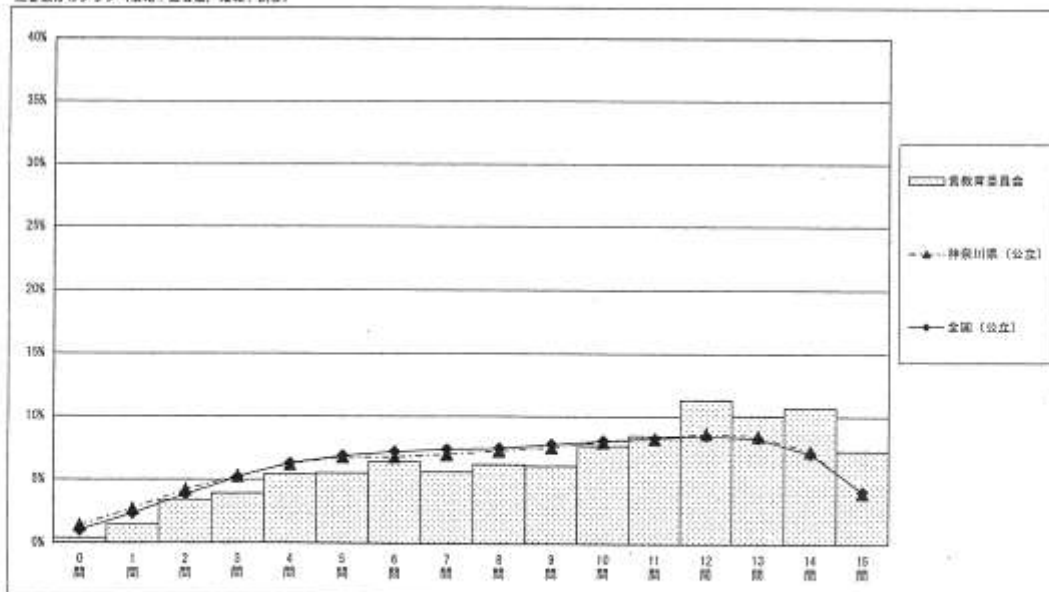
正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



中学校数学 B(主として活用)

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	987	8.5 / 15	56.7	10.0	4.0
神奈川県 (公立)	64,113	8.5 / 15	56.7	9.0	4.0
全国 (公立)	1,033,909	8.6 / 15	57.3	9.0	3.9

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



なお、使用している語句の用語説明は、次のとおりです。

- 平均正答数 …児童及び生徒の正答数の平均
- 平均正答率 …児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示
- 中央値 ……集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと
平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。
- 標準偏差 ……集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値標準偏差
が0とは、ばらつきがない(データの値がすべて同じ)ことを意味します。